

### 23. 急性期脳梗塞患者における高気圧酸素療法の効果—臨床経過と髄液乳酸濃度を中心に（第2報）—

大島光子<sup>\*1)2)</sup> 佐渡島省三<sup>\*2)</sup> 梁井俊郎<sup>\*2)</sup>  
八木博司<sup>\*1)</sup> 藤島正敏<sup>\*2)</sup>

〔<sup>\*1)</sup>福岡八木厚生会病院  
<sup>\*2)</sup>九州大学医学部第二内科〕

昨年の本会で、私共は急性期脳梗塞患者の臨床経過及び脳虚血を反映するといわれる髄液乳酸濃度を経時的に測定し、これらに対する高気圧酸素（HBO）療法の効果を報告した。今回私共は、更に症例を重ねてこの点を検討したので第2報として報告する。

自験44例の内訳は HBO 施行群32例、残り12例は非 HBO 群で、前者では HBO10回後（平均19病日）にすでに上昇していた髄液乳酸値（ $2.01 \pm 0.58$  mmol/L）は正常範囲内の値、（ $1.70 \pm 0.26$  mmol/L）まで有意に減少した。これに対し、HBO 非施行の12例では経時の変化は認められず、平均32病日においても高値（ $1.94 \pm 0.06$  mmol/L）を示した。重症度別にみると軽症例及び重症例では、HBO 施行群、非施行群との間に臨床経過や髄液乳酸値に有意差は認められなかったが、中等症例では HBO 施行により早期から臨床症状の改善を認め、髄液乳酸値も  $1.95 \pm 0.23$  mmol/L（1回目）から  $1.58 \pm 0.21$  mmol/L と有意に低下した。しかし HBO 非施行の中等症では、髄液乳酸濃度は1回目  $2.03 \pm 0$  mmol/L、平均32病日目の第3回目の測定でも  $1.96 \pm 0.07$  mmol/L と高値を示した。

以上により、中等症の急性期脳梗塞患者に対する HBO 療法は有効と考えられた。

### 24. 脳循環に対する高気圧酸素と星状神経節ブロックの影響

太田助十郎<sup>\*1)</sup> 波出石弘<sup>\*2)3)</sup> 日沼吉孝<sup>\*3)</sup>  
鈴木英一<sup>\*3)</sup> 松元 茂<sup>\*4)</sup> 寺田美恵<sup>\*4)</sup>

〔<sup>\*1)</sup>秋田県立脳血管研究センター麻酔科  
<sup>\*2)</sup> 同 脳神経外科  
<sup>\*3)</sup> 同 高気圧酸素治療室  
<sup>\*4)</sup>秋田大学医学部麻酔学教室〕

【目的】高気圧酸素（OHP）および星状神経節ブロック（SGB）の併用療法は突発性難聴に対して広く行われている。OHP による脳血流量（CBF）の減少は知られているが、一部に交感神経系の関与も指摘されている。今回、非 OHP および OHP 下の脳循環に対する SGB の影響を検討した。

【対象および方法】突発性難聴患者12名を次の2群に分け、各時点で CBF を測定した。第 I 群（ $n = 7$ ）：Rest, SGB。第 II 群（ $n = 5$ ）：Rest, 2ATA・O<sub>2</sub>, 2ATA・O<sub>2</sub> + SGB。同時に、動脈血ガス分析と平均動脈圧（mBP）測定も行った。CBF は rCBF Analyzer BI-1400（Valmet）を使用して<sup>133</sup>Xe10m Ci 静注法で測定し、値には Initial Slope Index を用いた。SGB は 1% mepivacaine 8ml 注入で行い、20分後に CBF を測定した。

【結果】第 I 群では、SGB 前後で PaCO<sub>2</sub>、PaO<sub>2</sub>、mBP に有意差はなかった。SGB 前後の平均大脳半球血流量（mCBF）は、ブロック側でそれぞれ、 $50.4 \pm 8.4$ ,  $49.0 \pm 5.9$  ml/100g/min、非ブロック側では  $50.7 \pm 8.4$ ,  $49.1 \pm 5.8$  ml/100g/min と、有意差を認めなかった。第 II 群での Rest, OHP, OHP + SGB 時における mCBF は、それぞれ、ブロック側で平均  $47.0$ ,  $39.5$ ,  $41.3$  ml/100g/min、非ブロック側で平均  $46.8$ ,  $39.5$ ,  $41.1$  ml/100g/min と、OHP により mCBF は減少したが、SGB はこれをやや増加させた。なお、PaCO<sub>2</sub> と mBP はほぼ一定であり、PaO<sub>2</sub> は Rest の 90mmHg から OHP 下で 1154mmHg と著明に上昇していた。

【結論】①非 OHP 下の脳循環に対し SGB は影響を及ぼさなかった。② OHP 下で減少した CBF に対し、SGB は増加させる傾向を示したが、さらに検討を要する。